

第 10 回青少年のための科学の祭典への参加報告

三重大学 工学部・工学研究科 技術部
田村雅史, 中村昇二, 前田浩二, 和藤浩, 鈴木義和
tamu_m@chem.mie-u.ac.jp

1. はじめに

平成 24 年 11 月 10 日（土）～11 日（日）に三重大学講堂（三翠ホール）で「青少年のための科学の祭典 2012」第 10 回三重大学大会が開催された。科学の祭典は、多くの子供たちに実験や工作を通じて科学のおもしろさを体験してもらうことを目的に始まり、全国各地で行われている。三重大学大会は平成 15 年度に始まり、今回で 10 回目を迎えた。毎年の恒例行事となり、多くの親子連れでにぎわっている。今年もその例にもれず、天候の悪い中でも多くの人々が訪れ実験や工作に目を輝かせていた。

工学部技術部では第 7 回から参加し、今回で 4 度目の出展となった。今回は、テーマ責任者への負担の分散を鑑み、テーマ責任者を交代して新しいテーマでの出展となった。出展に際して工学部の技術職員 5 名（田村雅史, 中村昇二, 前田浩二, 和藤浩, 鈴木義和）が参加した。

2. ブース出展内容

(1) テーマについて

テーマは「真空の不思議を体験しよう」とし、出展形式は実験演示とした。

(2) 演示内容

実験演示は、真空デシケーターの中に色々なものを入れ、デシケーター内を真空ポンプで減圧し真空にすることで起こる現象を観察するという内容である。真空中で起こる現象は、(普段何にも気に留めない) 空気が無いために起こる現象であり、逆に言えば空気（大気）の働きに気付く実験とも言える。今回の演示では以下の 9 つの実験を行った。

- (1) フタが開かなくなる？
- (2) 勝手に大きくなる風船
- (3) 大きくなるマシュマロ！
- (4) 風が止まる？
- (5) 目覚まし時計が聞こえない？
- (6) ヘリコプターが飛び上がれない！
- (7) 吸盤が落ちこぼる
- (8) 羽毛とコインの競争
- (9) 水が沸騰する！？



演示の様子



3. 当日の様子

実験演示は、(1)～(9)を順番に通して行った。所要時間は 20 分程度と少し長めであったが、演示に非常に興味津々、驚きをもって見てくれて、ほとんどの見学者（子供たちやその親も含めて）は興味を持って最後まで見てくれていた。また、その様子から、演示途中から立ち見での見学者も多かった。また、ひとつひとつの実験が独立しているため、どこから見ても楽しめるというのも良かったと思う。

4. まとめ

新しいテーマということで不安や緊張もあったが、子供たちが喜んで見ていてくれたので演示している側としても楽しく実験を見せることができた。この取り組みが多くの子供たちに科学の不思議さ、楽しさ、面白さを感じてくれたら幸いである。